

品川学園視察結果

- 日 時 令和5年2月9日(木) 14:00-16:15
- 目 的 二宮町における将来的な施設一体型小中一貫教育校の設置に向け、義務教育学校の先進事例である「品川区立品川学園」の取り組みを視察する。
- 視 察 先 品川区立品川学園(東京都品川区北品川3-9-30)
- 出 席 者 【品川区】
教育委員会 中島教育長、唐沢統括指導主事ほか
品川学園 荒川校長、大平副校長ほか
- 【二宮町】
研究会 原会長、山内副会長、野谷会員、岡野会員、藤原会員、杉本会員、大矢会員、渡邊会員、宮戸会員、小林会員、遠藤会員、北川会員、中西会員、伊庭会員、和田会員、山口教頭(代理)、片岡氏(代理)
村田町長(オブザーバー参加)
教育委員会 森教育長、椎野教育部長、下條教育総務課長、田中課長代理兼指導主事、田嶋主幹、大木教育総務班長、高橋主任主事

学園概要

- ・平成23年度より施設一体型小中一貫校 ⇒ 平成28年度より義務教育学校(※)
(※)学校教育法の改正により設置が可能となった。原則、1名の校長が小学校から中学校までの義務教育9年間を一貫して統括する小中一貫教育校。早期カリキュラムの導入などが可能となる。
- ・校長1名、副校長2名
- ・児童生徒数：1,146名(1～6年：778名、7～9年：368名 支援学級含む)
- ・学級数：40学級(1～6年：24学級、7～9年：12学級 支援学級：4学級)
- ・4-3-2制を採用
- ・実際は1-4年と5-9年で制服や教科担任制、部活動などの学校生活が変化
- ・学校長が学園全体の経営方針を策定
- ・「階段がある 垣根はない」という考え方
- ・9年間を通す行動目標を設定
 - 1年：習う 2年：見せる 3年：伸ばす 4年：挑む
 - 5年：知る(見る) 6年：やる(まねる) 7年：作る
 - 8年：超える 9年：残す(渡す)

■施設見学

【各階フロア・教室】

・各階フロアの学年配置

(1階：1・2年生、2階：3・4年生、3階：5・6・7年生、4階：8・9年生)
子ども達は、階層ごとのフロアの意識が高い(成長したら上の階に行ける!)など

・教室の形状

教室の形状を横広にすることで、黒板との距離が近く感じる。一般的な教室の面積(約64㎡)は概ね同じ

・教室の配置

各階フロアは、直線的に配置することで、全体を見通せるようにしている。

・学年ごとの教師コーナー

職員室とは別に、各フロアに設置している。学年の打合せや、教材の準備、休み時間の児童生徒からの質問対応などで使用。

・多目的なスペース

打合せするための部屋など特定の部屋を設けず、広く多目的なスペースを設けることで様々な活動ができるようにしている。(スペースの活用例：学年集会、吹奏楽・合唱練習、打合せ 等)

・昇降口

1か所集中の昇降口は、5～9年生用の2階のみ。3・4年生(2階)は各教室のベランダ側にげた箱を設置している。1・2年生(1階)も各教室の窓側(外側)にげた箱を設置している。→避難する際に、経路が集中しないように工夫している。

・各階に配置されている学年の発達段階で、以下のような工夫をしている。

○教室のドア・壁

1・2年：前に立つ教員に集中が向くように、ドアは後方のみ設置。

(教員は、前方からドアの出入りする人をチェックできる)

廊下を気にせずに児童が発表できるスペースを設置。

3・4年：1・2年生の教室よりも、廊下が見えるようになっている。

5～7年：廊下に面しているドア・壁がガラス。また、スライドすることで廊下との境をなくし、フルオープンにできる。→自由に行き来できることで、話し合い活動を活発にできる。

8・9年：廊下に面しているドア・壁がガラス。教室内を見通せる。5・6・7年生と異なり、学習面に集中できるように、教室の区分はしておく。

○ロッカー

1～7年生：教室の後ろに棚を設置。(ランドセルは幅をとるため、廊下にフックで収納を別に設置)

8・9年生：廊下に鍵付きのロッカーを設置。（自分のものをしっかりと管理できるように。）

○防災用ヘルメット・頭巾

1～7年生：頭巾

8・9年生：ヘルメット（防災訓練だけでなく、地域活動にも活用できるように）

・職員室

廊下との間のドアや壁はガラス張りになっており、双方から見渡すことができる。

・その他の施設

○温水プール・幼保一体施設「北品川すこやか園」

渡り廊下をはさんでプール棟と幼保棟が併設されている。

プール：6～11月の間で水泳授業を実施。放課後の時間（18時以降）は一般開放。

（委託業者管理）

1～9年生までの水泳授業が終了するには、6～11月までかかる。

すこやか園：品川区管理

○体育館・武道場

体育館は、バレーコート3面分の広さがあり、ネットで区画することで、複数学年が併用することができる。

武道場は、板張りのフロアの一部に畳を模したマットが設置されており、マットを撤去することで、集会場などとしても活用できるよう工夫されている。

○メディアセンター

学校図書館としての機能を有し、2・3階に設置されている。

図書室といった個室ではなく、フロアの一角に開放的な形で設置され、児童生徒の交流や、居場所としての機能も併せ持っている。

○スチューデント・シティ

品川区立の小学校・義務教育学校の前期課程において、市民科の経済体験学習の場として使用される施設。学校で学んだ知識と普段の生活を関連させ、社会の仕組みと経済の働きを理解し、人としての基礎的素養を身に付けることを目的に開設された。品川学園では5年生のキャリア教育で活用。他の小学校からの利用も可。

協力企業により、実際の販売やサービス提供を想定した多数の模擬店舗が並び、商品やレジも実物が陳列されている。

■座談会

校長より

○経過

- ・現在 40 学級 約 1140 人
- ・もともと隣接した小中学校（品川小学校・城南中学校）であり、小中一貫教育を実施してきた。 → 平成 28 年度の法改正を受け、義務教育学校「品川学園」となった。
- ・第 1 期 意識改革（H23～H25）
第 2 期 4-3-2 の教育内容の開発（H26～H27）
平成 28 年度～義務教育学校（都内では 6 つ義務教育学校がある）
小学校と中学校ではなく、1～9 年間で育てるという意識が大事。大きな強み。

○小中一貫を理解した順番

- ・子どもが最も先になじむ。日々生活する母校として。
- ・次に地域。学校は地域の中にあるので、地域の一部として受け入れてくれる。これまでも学校へ協力してきたので、そのまま継続して協力してくれる。
- ・3 番目は保護者。自身の経験から 6-3 制の感覚が抜けないが、徐々に慣れていく。
- ・最後は教員。従来の 6-3 制の教育現場が良いと考え、教員を目指しているので、従来の形にこだわりをもっている。

⇒子どもの成長はずっと続く。6-3 制として捉えると、一連の成長が途切れてしまう。

1 つの学校として捉え、子どもの成長の先を見ながら同じベクトルで進めることが大事。

- ・基本、9 年間で 4-5 のまとまりとして捉えている。成長過程としては、4-3-2 の捉えもあるが、細かい区切りになるとどうしても成果主義になりがちなので、長いスパンで子どもの成長を見据えたカリキュラムを構成している。
- ・子どもたちは 9 年間の成長を見通せるので、常にどの位置にいて、何をすべきかを考えて行動できるようになっている。子どもたちが自ら、自立に向けて連続して積み上げていき、社会性を養えるようなカリキュラムを構成している。

○品川学園コミュニティ・スクール

- ・コミュニティ・スクールの「協働」は、単に学校の教育活動に、地域や企業に協力してもらったものではない。学校、地域・企業、学校支援地域本部が、それぞれの立場や違いを尊重し、協働の目的を共有して進めることが大事。
- ・各学校に 1 人コーディネーターを配置。（品川学園は 2 学校分なので、2 人の配置）

○教育活動

■1～4 年生

- ・45 分授業・学級担任制

- ・運動会（1～4年生）などでは、4年生が最終学年となる。4年生が中心となり、1～3年生のモデルとして意識して行動している。

■ 5～9年生（5～7年生/8・9年生）※教育活動の中身としてさらに2つに分けている

- ・50分授業・教科担任制
- ・5年生から50分授業と定期テストが始まる。

<5・6年生>

- ・学年の先生が教科ごとに担当を決めて教科担任となる。（例. 5-1の担任が「国語・社会」、5-2「理科・英語」を受け持つイメージ）

<8・9年生>

- ・自分で計画を立て、管理し、課題解決をできるような学年として意識している。
- ・1～4年生のモデルや活動のサポートを行うほか、学校全体の様々場面で活躍する。

○カリキュラム

- ・学習指導要領とほぼ変わらない。先取りなどはしていない。
- ・品川独自の部分は以下の通り。

- ・総授業時間数 1年生 指導要領の時間+75時間
2年生 指導要領の時間+50時間

・英語

- ・1～4年生：英語は教科としてカウントしている
- ・人員の配置：1・2年生 ALT ⇒ 英語の楽しさを知る
3～6年生 JET(日本人英語指導者) ⇒ 英語の基礎を理解するため、日本人指導者だから教えられる発音等の具体的な指導
7～9年生 ネイティブ

・少人数制学級

- ・3～6年生 算数 少人数制指導、2学級を3クラスに分けて指導
※ +1人の教員は東京都の加配
- ・7～9年生 英語 少人数制指導、2学級を3クラスに分けて指導
※ +1人の教員は東京都の加配

○学校行事

- ・行事の種類はほぼ同じ。
- ・他学年と多く関わるように意識して行っている。近くにモデルがいるのは大きい。施設一体型だからこそ、日常的に、短時間で交流ができる。

例. 1～4年生の運動会：5～9年生は参加しないが、有志がサポート。（道具運搬等）

1～4年生の校歌：1～4年生の音楽朝会の中で、（合唱コンを経験した）5～9

年生の有志が見本を見せるとともに、一緒に歌う。

⇒ 合唱コンでは、1つ下の学年が上の学年の姿を見られるようにして、次にながけている。また、その姿を見た他学年から感想を言う機会なども設けている。

・6年生の終わりに修了式が行われる。(中学生から私学に行く子どももいる。)

○進路指導(7年生～)

- ・コミュニティ・スクールのコンセプトを基に、積極的に外部の方に来てもらっている。
- ・現在はコロナの影響で職業体験を行っていないが、40～50種類の企業に来ていただき、各ブースに分かれて話を聞くなども行っている。

○部活動

- ・運動部は5年生から参加できる。(7年生から公式大会に参加可)
- ・練習時間として5年生は17:30まで、その他18:30までとしている。
- ・文化部は4年生から参加できる。
※吹奏楽部は年間3～4回校内のアリーナで定期コンサートを開催。観客(放課後クラブの子ども、保護者等)
- ・学園のすべての先生方が部活動に携わる。

○安心・安全

- ・いじめ、不登校、虐待案件等の情報交換の場として、なかよし会議(メンバー:管理職及び1～9年の学年主任)を開催。各学年の配慮する子どもについて情報交換し、誰もが対応できる体制を整えている。月1～2回程度。
- ・スクールカウンセラーは週に2回勤務。(前期で1人・後期で1人)

○制服

- ・1～4年生と5～9年生で種類が異なる。(ハーフパンツ⇒長ズボンなど)
- ・標準服を採用。
- ・リボンやスカート、スラックス等については、どちらも希望したものを着用できる。
- ・夏は暑いためポロシャツを用意している。

○施設

- ・施設は、基本的にバリアフリーで、オープンなスペースにしている。
- ・放課後は、プール、アリーナ、武道場等を一般開放している。

○指導力向上

- ・各教科、各学年等の単位で、2人から大人数と様々な形態により開催している。

- ・ICT を活用して教材を作っているほか、動画等で記録を残し、子どもが後で見ることができるようにも取り組んでいる。

○地域の支え

- ・地域の代表と生徒会役員が、地域に求められていること等を意見交換する場を設けている。その結果は生徒会から各委員会に情報共有し、それぞれ実現に向け活動をしている。

○質疑応答

藤原会員

- ・品川区の他の学校では、義務教育校を進めるにはハードルがあるとのことだったが、具体的にどのような理由か。
- ⇒品川学園は隣接していたが、地域によっては、通学できる距離などにハードルがあったようである。また、もともと小中一貫の考え方は流布されていたが、義務教育学校の制度への理解が進んでいなかったのも考えられる。

片岡氏（二宮小CS：代理出席）

- ・品川コミュニティ・スクールと国が示しているコミュニティ・スクールとの違いは何か。
- ⇒基本的には変わらない。なお、学校地域コーディネーターには品川区の会計年度任用職員を配置している。

原会長

- ・品川コミュニティ・スクールの委員は、教育活動等にも参加しているのか。
- ⇒年6回会議のほか、学校公開での見学、行事の参加等、学校を多く知る機会を設けている。委員には、地域の方が多くいるのもともと学校への理解も深い。

岡野会員

- ・キャリア教育について、スチューデント・シティ等を実施して、子どもの反応はどうか。
- ⇒体験をすぐに将来に結びつけられる子どもは多くない。一方で、様々な職種を多く知れることの関心は大きいようである。

大矢会員

- ・ご意見ボックス/相談ボックスの利用頻度はどうか。
- ⇒児童生徒会役員が、月に数回開催する会議の題材として活用している。検討した結果、実現できないものもあるが、校内放送でその理由などもフィードバックしている。ボックスに入れられる意見は多くないが、様々な意見を吸い上げる機会の一つとして有効だと考えている。

■視察まとめ・所感

【視察まとめ】

品川学園では、9年間で一つの学校の「つながり」を強く意識し、途切れることなく続く子どもの成長の段階に合わせて設計された教育システムが教育効果を高めていることがわかった。

1年生から9年生が1つの校舎にいて互いに見える環境は、早い段階から近い将来が見通せるだけでなく、子どもたちの自立に向けた行動や新たな気づきにもつながるなど、様々な教育効果をもたらすこともわかった。

また、子どもたちの豊かな成長を支えていくためには、学校、地域、保護者が連携・協働することが大事であり、単に学校教育に協力してもらうのではなく、それぞれの立場や違いを尊重し、協働の目的を共有して進めることが重要であると感じた。

今回の視察が、今後の施設一体型小中一貫教育校における研究において、大いに参考になるものだと感じた。

【視察参加者所感】

令和5年3月3日第5回二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会

グループワーキング結果「視察を踏まえ二宮町の小中一貫教育で取り入れたいこと」

Aグループ

- ・空間のゆとり
- ・5～7年生が互いに見える（見える化（教員も含む））
- ・成長に併せた区切り方（4－3－2制）
- ・9年間で育てるという意識
- ・教員全員で理解している
- ・近い将来をみられる
- ・キャリア教育、将来像を早い段階から見える

Bグループ

- ・様々な行事に様々な学年が参加している
- ・生徒がやりたいことをサポート
- ・キャリア教育
- ・4－3－2制の考え方が徹底されている
- ・教員の考え方が定着している
- ・いじめ、なかよし会議の定期的な開催
- ・5年生から定期テストを導入
- ・地域全体がコミュニティ・スクール、進化したコミュニティ・スクール

Cグループ

- ・子どもたちが自分たちで教え合う、自然にし合える

- ・ 9年間で育てる自覚
- ・ 学童も取り組む（教育課程外でも異年齢交流を通じて学べる）
- ・ 地域コミュニティの関わり、企業との関わり
- ・ チームで教育を行う、教員にとって楽しい職場であること
- ・ 独自のカリキュラム

外観・グラウンド・昇降口

【品川区立品川学園】



・第3グラウンドまであり



・低学年は、グラウンドから直接教室に入ることができる

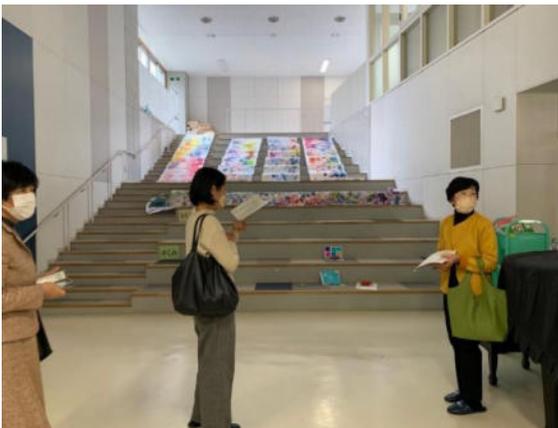


各階フロア

【品川区立品川学園】



- ・廊下は通常の2倍程度の幅
- ・オープンスペースとして、様々な用途での利用が可能



- ・左の写真は、ひな壇展示が可能なスペース
- ・右の写真は廊下の一角に設けられた「教師コーナー」

メディアセンター(図書・情報)

【品川区立品川学園】



学校の歴史展示



ランチルーム



・それぞれが「部屋」ではなく、開放感のある
オープンスペースとして利用しやすい空間
となっている

教室

【品川区立品川学園】



・高学年の教室は、フルオープンが可能



・教室は横幅が広い

・低学年の教室は後部にロッカーがあるが、
高学年の教室にはロッカーがなく、廊下に
設置されている ⇒自己管理できるため

・低学年の教室には、廊下を気にせず発表できる
スペースが設置されている

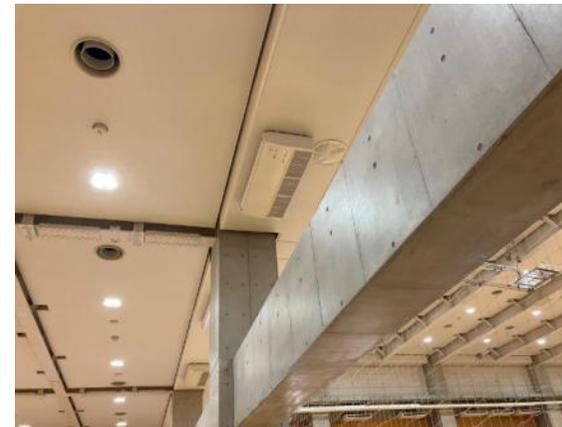


プール

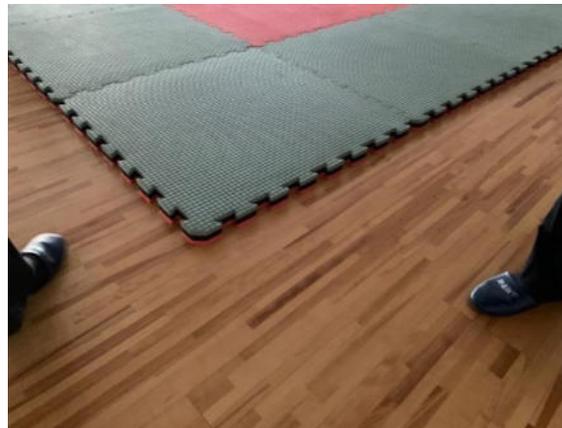


【品川区立品川学園】

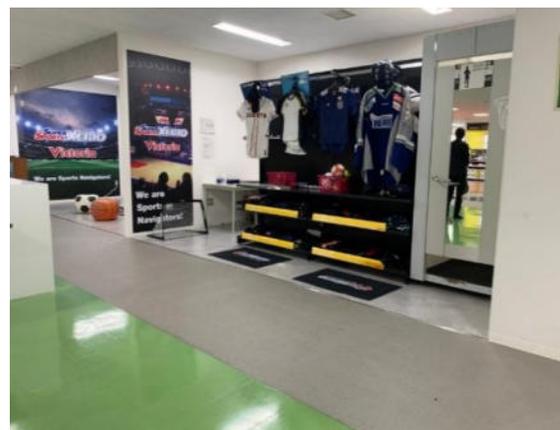
体育館



武道場



- ・武道場は畳ではなく、マット仕様で取り外し可
- ・取り外すことで、集会場としての使用が可能



- ・フロア一帯が、商店街を模しており、数多くの模擬店舗が設置されている
- ・各模擬店舗は、協力企業により、実際の商品が陳列されている
- ・品川区に暮らす人々を想定し、模擬「区役所」を設置し、住民登録をする前提